

科目名	国際経済・金融と企業 Business in Global Economy & Finance		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・木・4 限	秋・木・5 限	-	-
担当教員名	渡辺 喜宏	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>1) 将来の企業経営幹部・行政官として各国の通貨価値の変動に端的に現れる国際経済・産業・金融の動向と枠組みを理解する。</p> <p>2) 上記の立場で、近年頻発する通貨・金融危機と国際経済の変動を理解し企業経営へのインパクト、事業投資機会と種々のリスク・軽減策を理解する。</p> <p>3) 経営幹部として最適海外業務戦略と行政官として企業をサポートする政策立案の着眼点を探る。</p> <p>4) 日本企業の課題と行政からみた政策課題—海外事業投資について議論する。</p>				
<p><講義計画></p> <p>1 週目：国際経済・産業・金融の枠組み —事業経営の場となる国際・国内市場の枠組みを理解する</p> <p>2 週目：企業経営幹部として経済環境の把握・着眼点 —経営者としての経済の把握・着眼点を探る</p> <p>3 週目：外部資金調達先としての金融機関 —金融機関を取り巻く環境と規制を理解する</p> <p>4 週目：国際収支と外国為替相場決定理論 —国際取引交易条件を決定する通貨価値の変動への理解を深める</p> <p>5 週目：国際通貨制度 —国際通貨価値の安定と柔軟性を支える国際制度・機構の歴史と現状を理解する</p> <p>6 週目：頻発する金融・経済危機の原因を探る —伝統金融とイスラム金融</p> <p>7 週目：基軸通貨国アメリカと米ドル —日本経済に最も大きい影響を持つアメリカの通貨ドルの役割</p> <p>8 週目：欧州経済と金融 —国際経済の不安要因である EU の現状を理解する</p> <p>9 週目：中国経済とその経済戦略 —転換期にある中国と日本企業</p> <p>10 週目：日本経済・金融環境と日本円相場 —日本企業を取り巻く経済金融環境と円相場の変動要因を理解する</p> <p>11 週目：インドと日本 —将来市場として日本企業に最も期待の高いインドの現実</p> <p>12 週目：イスラエルとイノベーション —アジア諸国の中所得の罫からの脱却と成長のカギとなる全要素生産性向上とイノベーション及びクリエイションに必要な要件を探る</p>				

<p>13 週目：アセアン諸国・経済共同体 とその課題 —日本企業の進出が早期に進んだアセアン諸国と経済共同体の現状</p> <p>14 週目：日本企業の海外事業展開 —企業の海外進出の現実 —日本企業が必要とする人材とその育成課題</p> <p>15 週目：日本企業の進出国の経済金融環境を踏まえた通貨変動の予測 —日本企業を取り巻く自国金融経済環境と通貨変動の予測 —受講生による通貨価値変動予測と発表</p>
<p><講義の進め方> SNS にアップロードした講義スライドを講師が説明し、その後受講生の意見を求める。 14 週・15 週においては、ケーススタディ課題に、グループ或いは単独で回答し発表する。</p>
<p><準備学習内容> SNS にアップロードされた資料あるいはリファレンスされた HP 等を事前に研究する。</p>
<p><教科書及び教材> 講師の用意する PP スライドと資料</p>
<p><参考書> イスラム銀行とイスラム金融—渡辺喜宏・PHP 出版 国際通貨研究所ウェブサイト http://www.iima.or.jp 国際金融入門—小川英治著・日経文庫 幻想の東アジア通貨統合—西村陽造・日本経済新聞出版社 世界経済は通貨が動かす—行天豊雄・PHP 出版</p>
<p><成績評価方法> 欠席 6 回以上は成績評価しない。講義での意見発表・質疑（50%）・課題へのプレゼンテーション 或はレポート内容（50%）</p>
<p><履修条件> 特になし。</p>
<p><DVD による視聴> 可</p>
<p><オフィスアワー> 木曜 3 限</p>
<p><その他> 講義資料において参照される HP、関連報道等は講義の前に或は事後目を通しておく</p>